

きんもくせい

編集目標 人間尊重の教育を求めて

令和3年 学校教育だより

December **12** 第351号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711 (内線622)



仲間とともに団結し、全力を出し切ろう！！

写真提供／水谷東小学校

栗の親子

勝瀬小学校 六年

伊東 航平

落ちた栗が

風にゆられて

地上は怖いけど

総苞トゲトゲが守ってくれる きっと

黒い虫が来ても

総苞トゲトゲが守ってくれる きっと

だよね お母さん

端末導入による 学びの形

指導者 つるせ台小学校 教諭 瀬田 雄太

一人一台学習用端末で広がる学び

GIGAスクール構想により全国で一人一台学習用端末が整備される中、本校は富士見市のICT推進校として、子どもたち一人ひとりが学習用端末をいち早く活用できるような環境を整えてきました。同時に、学習用端末を授業の中でどのように活用できるか職員で研修を重ね、研究を進めてきました。

これからの子どもたちは、大人が経験したことのないSociety 5.0と呼ばれる未来社会を歩んでいきます。Society 5.0とは、普段の生活の中にデジタル技術が大きく関わっていく社会のことで、その流れに合わせて学校教育も大きく変わってきています。教科書、ノート、筆記用具といったこれまでの授業準備に学習用端末を追加することが当たり前になっていくのです。ここでは、学習用端末を活用した本校での取組と子どもたちの新しい学びの形について紹介していきます。

学習用端末導入にあたって

学習用端末を多くの授業で活用していくために、本校では、IDとパスワードの大切さ、使用のきまり、健康面への配慮等について十分指導した後で、カメラ機能など簡単な操作から慣れさせていきました。デジタルのカメラには「記録する」「あとから見直せる」とともに、「拡大できる」という利点があります。これだけでも普段の授業が大きく変われることを実感しました。

三年生理科の「春を探そ



東中学校 2年 藤田 公

第46回合唱祭は、第1部を体育館で開催し、全体合唱や学年合唱などを行いました。また、「いなほ学級と有志合唱団」を結成し、計100人で「花は咲く」を手話を織り込みながら披露しました。第二部ではキラリ☆ふじみに会場を移し、クラス合唱を発表し合

白熱した合唱祭

い、短期間で集中して練習した成果を発揮できました。各クラスとも合唱のレベルに差がなく、審査が難航して結果発表の瞬間まで会場内はワクワク感とドキドキ感に包まれました。コロナ禍で心配されていた延期や中止もなく、感動的な合唱祭を全校生徒の力でつくり上げられて、思い出がまたひとつ増えました。



う」という授業では、学校の中で春を探し、観察しながら、昆虫や植物を観察しスケッチする際に、対象物が動いたり、片手で持っていなければ見えづらかったりするなど、思うように観察できないことがあります。しかし、学習用端末のカメラ機能を活用すれば、後からゆっくり観察することができます。見えづらい部分も二本の指で簡単に画面を拡大することができ、これまで子どもたちが気づけなかった細か



全員の考えを共有するための活用

次のステップとして、端末にあらかじめインスタールされているアプリケーションを授業で活用していき

ました。まず、「ミライシード」という協働学習に活用できるアプリケーションを紹介いたします。これは画面上で子どもたち同士が考えを発表し合って共有したり、自分なりに集約したり、比較したりすることができるようです。中でも「オクリンク」

わかる授業

＝ 小学校 ＝

一人一台学習用 新しい

という機能を使うと、自分で作成したカードを全員に送信することができます。この機能を活用した図工における作品鑑賞の授業を紹介します。

子どもたちは、自分の作品を撮影し、作品カードに写真データを貼り付けて送信します。すると、提出ボックスに全員の作品カードが集まってきます。これまでであれば教室の中を歩き回っていたのが、席を立つことなく全員の作品を学習用端末の中で鑑賞すること

ができます。「教室を歩いて作品を鑑賞し合うときよりもじっくり見ることができた」「友達が集まらないから感染防止を気にすることなく見ることができた」など、子どもたちの授業後の感想から学びが充実していた様子が見えま



特別支援教育

きのみ学級での

ICT機器の活用

水谷小学校 教諭 長澤 友香

水谷小学校の特別支援学級「きのみ学級」では、二年生から六年生の児童が学

習しています。きのみ学級の友達とはもちろん、交流の友達とも仲が良く、学級の友達とも仲が良く、休み時間は「〇年〇組に行ってきます。」と嬉しそうに出かけていきます。雨の日、きのみ学級の教室で遊ぶことが多く、様々な学年の子どもたちが仲良く過

ごしています。

今年度より一人一台のパソコンを使用した学習を開始しました。子どもたちは、学習用端末を使う学習が大好きで、説明をよく聞いて一生懸命取り組んでいます。画像検索や発表用資料の作成や作成資料の提出など、できることが日に日に増えており、子どもたちの吸収力に驚いています。

二学期から始まった自宅でのオンライン学習では、普段の授業のように小集団で相互にやりとりをしながら学習しました。子どもたちはどの教科でも目を輝かせながら楽しそうに参加していました。

ICT機器を活用しながら、できることを少しずつ増やしていきたいです。他校の児童生徒との交流会は、オンラインやビデオレターなど形を変えて行いました。また直接会える日を楽しみにしながら続けていきたいと思

オンライン学習での使用

二学期初めの分散登校・短縮授業期間中には、子どもたちの学びを継続すべく、本校でもWeb会議システムである「Teams」という機能を活用し、学習内容を配信しました。教員も子どもたちが目の前にいない状態で行うのは初めての経験で、さらに通常の対面授業と比べてできることは限られていたので、なるべく学習効果が高まるよう工夫を凝らしました。

例えば国語の学習では、子どもたちが考える場面や疑問をもつ場面を多くするために「PowerPoint」を活用しました。考えさせたい部分を強調したり、隠したりするのに便利だけでなく、黒板をカメラで写すよりも大きな字で見やすく説明することもできました。毎時間の授業の教材を準備するのは時間がかかりましたが、学習用端末を家庭に持ち帰らせることで、学習を様々な形で提供できることの可能性を感じました。

終わりに

一人一台学習用端末が導入され、学びの形がこれまでと比べて大きく変わったと実感しています。本校では「だれ

でもできるつるせ台小アツプデート」をテーマに掲げ、引き続き「Society5.0」の時代を生きる子どもたちのため、指導法のアップデートに全職員で力を合わせて取り組んでいきます。

指導・講評

つるせ台小学校長

内海 幸一郎

本校児童対象の学習用端末を活用した授業に関するアンケートでは、「使った方が楽しい」が83%、「使った方がわかりやすい」が65%となっています。

学習用端末導入により子ども一人一人の学びや多様な他者との学び合いをさらに充実させられるよう、市内各校と連携し研究を進めていきます。



継続は自信と力

水谷中学校 保護者 竹内 宏俊

私には、この四月に中学生になった娘と小学四年生の息子がいます。昨年から続くコロナ禍による制限の中、それでも子どもたちのためにと教職員を始めとする皆様のおかげで学校行事が開催出来ることはありがたい限りです。

十月二十三日には、川越運動公園で中学校駅伝の地区予選会が行われたのですが、その走者に娘が選ばれたことに驚きました。そして、予選会では区間賞まで取ってきたことにさらに驚きました。もともと、娘はそれほど高い身体能力がある子ではありませんでした。しかし、小学四年生のときに持久走で上位に入ることが目標にしたことがきっかけで近所を走るようになり、さらにバスケットボールを始めたことで徐々に身体能力が向上し、速く走れるようになり自信をつけたように思います。

そんな娘ですが、中学校入学当初は、バスケットボール部に入部したものの、オールコートや学年による体格差に戸惑い、思うようなプレイができず、自信を無くしてしまいました。そうした状況の中でも諦めずに、コツコツと練習を積み重ねることで、少しずつコートの広さや体格差にも慣れ、自信を取り戻していきました。その結果として、今回の駅伝大会の区間賞につながったのだと思います。



行事ではぐくむ「生きる力」

みずほ台小学校

十月下旬、本校では運動会を実施しました。今回の運動会で、応援団長として活躍した二人に感想を聞きました。

「三年生から目標としていた団長をやり切ることができ、憧れていた先輩に近づくことができました。」
「チームのみんなと練習したことを本番で発揮できたことが心に強く残りました。」

他の児童も運動会を通じて、協力することの大切さや、最後まで諦めずに取り組む姿勢が身につくとともに、感動を感じることができました。

新型コロナウイルスの影響で行事が削減・縮小される中、これまで通りとはいきませんが、行事を通じて得られる「生きる力」をはぐくむために、創意工夫をしながら進めています。児童

童も一人ひとりが考えながら仲間と共に充実した時間を過ごしています。次は音楽会です。児童の「生きる力」がどう磨かれていくのが楽しみです。



はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

今しか聞けない

ハーモニー

ふじみ野小学校 保護者 大川 美保子

十一月の昼休み、音楽室から「虹」の歌が聞こえてきました。第五波の影響で活動を休止していたふじみ野小の「歌声リーダー（有志合唱団）」が活動を再開しました。私には中三と小六の息子がいます。長男は小学生の頃に歌声リーダーに所属していました。歌うことが大好きで、今年初めに中学校で結成された有志合唱団にも立候補し、合唱祭では有志合唱団として

も歌を披露しました。歌が好きなメンバーが集まったの有志合唱団の歌は素晴らしく、感動で涙が出ました。「ほらね、」という歌でしたが、歌詞に込められた思いや、心を込めて一生懸命歌う姿に、あらためて歌のすばらしさを実感しました。

ふじみ野小は、今年も合唱のない音楽会でした。コロナ禍で、音楽会を開催できるだけでなくありがたい状況です。

しかし、子どもたちの歌声を聞きたいのが、親としての本音です。楽器の演奏も良いですが、子どもたち自身の声のハーモニーだからこそその感動が合唱にはあると思います。

次男も来春から中学生です。声変わりをしはじめ、子どもらしい歌声がもう聞けないのかなと寂しく思います。小学生の歌声は中学生とは違う今しか聞くことの出来ない、貴重なものだと思います。卒業式には、体育館に響きわたる子ども

たちの元気な歌声を聞かせて欲しいです。

最後に、早く自由に歌える日常が戻ることを願っております。



地域色をさらに濃くして



東中学校

東中学校では、「みどり香漂い 東風うけて」をコンセプトに掲げ、本校の伝統である「挨拶・清掃・自転車マナー」を軸として、東中生誰もが清く正しい中学校生活を送ることができるように日々全校で取り組んでいます。

今年度は、一人一台端末が導入されたことに伴い、オンライン授業を推進していく上でのアイデアや手法の情報交換を南畑小、諏訪小との三校

合同教職員研修会として、リモートで行いました。

また、本校生徒会と南畑小児童会がタイアップして、コロナ医療福祉の募金活動を校内はもとより、南畑小の放課後児童クラブやデイサービスセンター南畑にも協力を呼びかけて実施しました。そして、富士見特別支援学校との交流会も再開でき、学校の特徴あふれる活動を紹介し合いました。今後は、図書委員会の生

徒たちによる南畑小の放課後児童クラブでの読み聞かせ活動や富士見高校との生徒合同会議も予定しています。



教育課題特集

生きる力を

居場所としての図書館

富士見市立中央図書館 伊藤 由紀子

中央図書館の児童班で働いて三年になります。

十二月健診のブックスタート、乳幼児へのおはなしかい、小学校の図書館見学、中学校の職場体験、ぬいぐるみおとまりかいなどのイベントで、子どもたちとふれあいます。楽しい記憶や、なにか温かい気持ちが残ったら言いなあと、思いながら子どもたちと接して、いつも最後に「また来てね」と声をかけます。

図書館は、本を読んだり、調べ物をしたり、勉強する場所というイメージがあると思いますが『居場所としての図書館』『ここにいていいんだよ』という場所であることを子どもたちに伝えていけたらと思っています。

夏は涼しく、冬は暖かく、安心して過ごせて無料で利用できる場所って、なかなかありません。なにか心がざわざわした時、落ち込んだ時は、ぼんやり静かに座っているだけでもいいんです。本を読ん

でいなくても「何をしているの？」なんて図書館員は話しかけたりしません。ただ見守るだけです。心が落ち着いてきたら家に帰ればいい。そして心に少し余裕ができてきたら、本棚をめぐって、良い本と出会えたら最高です。世の中って自分が考えているより広くて、違う世界があると気づいてもらえたら、もう一回頑張ってみようかと思ってもらえたら、そんな心のオアシスのような場所。『図書館』にしていけたらと思いつながら、今日も子どもたちを見ています。



人間尊重教育推進

わたしたちのまちに 育てよう 広げよう 人間尊重の心

一 富士見市は人間尊重宣言都市です

私たちのまち富士見市は、昭和四十一年に人間尊重都市宣言をしました。

「からだと心の健康を高めよう」

「自分を大切にするとともに、他人を尊重しよう」

「個性をよりよく生かし社会のために役立てよう」

と呼びかけながら私たちのまちを人間尊重のまちにすることを宣言したのです。

二 学校における人間尊重

市内の小・中・特別支援学校では、一人ひとりの子どもたちに確かな学力を身につけさせるとともに、人間らしくよりよく生きる心をはぐくむための教育が実践されています。

また、すべての教職員により一人ひとりの子どもたちが大切にされ、互いに尊重し合い、信頼関係で結ばれた学校づくりが進められています。

三 家庭教育における人間尊重

子どもにとって家庭は、安らぎの場所であり、人間としての生き方を学ぶかけがえのない場です。また、親子のコミュニケーションは、食事が体をつくるのと同じように、子どもの豊かな心をはぐくむこととなります。家庭での温かい言葉かけは、子どもの心を育てる栄養となります。

毎日の家庭生活の中で、やさしさや思いやりなどの豊かな心が育つことを願って「家庭における人間尊重教育十か条」が作成されており、ご活用ください。

家庭、学校・行政が力を合わせ、一体となって子どもたちの健全な育成に努力していきましょう。

家庭における人間尊重教育十か条

一人のいのちを大切にしよう

いのちある動物、植物をいたわりましょう

健康を大切にしよう 正しい食事と適度な運動でからだづくりにつとめましょう

おはよう、おやすみ、たたいま、おかえりのことばが聞こえる温かい家庭をつくりましょう

ありがとう、ごくろうさまの素直なことばで感謝の心を育てましょう

家族の仕事を分担しよう

家族の一員としての役割をはたしましょう

人の喜びを喜びとし 人の心の痛みを分かちあい助けあつていきましょう

やさしさ いたわりの心を大切にしよう

おとしりの方々に学びましょう

どんな物も人の汗と力でできることを知り物を大切にしよう

正しくやさしいことばでつつまれた明るい家庭をつくりましょう

正しいことばをつらぬく強い心で

勇気ある行動をとります

人間尊重 わたしたちの合言葉

【小学生の部】

ありがとう 心をつなぐ 愛言葉

(針ヶ谷小学校 五年 畑中 結衣)

あいさつは みんなをつなげる まほうだよ

(鶴瀬小学校 五年 山田 晃誠)

【中学生の部】

かくされた 痛み気づける 人間に

(勝瀬中学校 一年 松原 瑞希)

紡ぎましょう 心を結ぶ 言の糸

(富士見台中学校 一年 木ノ脇 カンナ)

入間郡市同和対策協議会 応募作品より
入間地区人権教育推進協議会

【小学生の部】

勇気出し 声をかけよう 助け舟

(みずほ台小学校 五年 鎌田 結衣)

ありがとう 心やさしい おまじない

(針ヶ谷小学校 五年 佐藤 和弓)

【中学生の部】

「やってない」それじゃあなたは 助けたの？

(東中学校 一年 矢田 詩織)

大事にね 相手の心を 知る心

(西中学校 一年 海老名 泰一)

〔富士見市人権教育推進協議会 応募作品より〕

人間尊重・私の主張

人権問題について

「あたりまえ」のランドセル



本郷中学校 二年

渡世 柚香

小学校を卒業するとき、ランドセルは捨てようと思っていた。

「場所もとるし、いらぬよね。」

と母に言うと、意外な答えが返ってきた。

「じゃあ、寄付してみたら。」

それが、私の人権について考えるきっかけとなった。

いらぬかと思っていた私のランドセル。それで世界のだれかを助けることができるかもしれない。私は気になって、母が見ていたスマホの画面をのぞいた。世界には、教育を受けることのできない子どもたちがいる。教材など、学ぶために必要なものが、その子たちにとっては「あたりまえ」ではない。今まで他人事のように、漠然としていたものを、目の前に突きつけられたような気がした。

「場所もとるし、いらぬよね。」

ついさっき口に出したことば。自分がランドセルを使えることは「あたりまえ」で、いらぬかと思って捨てるのも当然のこと。

無意識に考えていたことが、突きつけられた。

「あたりまえ」だと思うのは、それが十分に使え、自分の思い通りになるからだ。そんなことを考えたのは、初めてのことだった。

「うん。寄付してみたい。」

そうして、私のランドセルは他の子どものランドセルとなった。

つい最近、寄付したランドセルが筆記用具などを入れて子どもたちに届けられたということを知った。青空教室で机のかわりとしても使われているそう。とても驚いたが、うれしかった。自分のあのランドセルが、本当に誰かの助けになったことが、少しだけ誇らしかった。

世界中の子どもたちが、教育を受けられるようになるには、きつと長い時間がかかるだろう。自分がそれに協力しても、助けられるのはとても小さいことだけかもしれない。しかし、私はそのことをきっかけにして、自分の今までの考えを見つめ直し、人権について自分なりに考えることができた。そんな人をもっと増やして、社会全体が人権について真剣に向き合えば、きつと、みんなが「あたりまえ」に教育を受けることができる世界に近づけようと思った。

《小学校宣言》

私たちは、全校児童が仲良く楽しく過ごせる学校をつくるために、相手の気持ちを考えた行動を心がけ、いじめのない学校を目指し、以下のことを宣言します。

- 一 私たちは、いじめをしている人に「遊び半分で相手を傷つけるようなことをしてはいけない。」と注意します。
 - 一 私たちは、いじめられている人に「いつでも相談してね。一人でかかえこまないで。」と声をかけてあげます。
 - 一 私たちは、いじめを見ている人に「見ているのもいじめだよ。いっしょに助けてあげよう。」と言います。
 - 一 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「子どもの変化に気づいて助けてください。」とお願いします。
- 私たちは、友だちのいいところを認め合い、いじめがなくなるまで、「いじめはだめだ。」とうったえ続けます。

《中学校宣言》

私たちは、一人ひとりの個性を認め合える、いじめのない太陽のような学校をつくるために、以下のことを宣言します。

- 一 私たちは、いじめをしている人に「相手の気持ちになって、自分の言動を見つめよう。」と声をかけていきます。
 - 一 私たちは、いじめられている人に「一人じゃないから勇気を出して相談してね。」と声をかけていきます。
 - 一 私たちは、いじめを見ている人に「私たちの一言で救われる人がいるからみんなで助け合おうよう。」と声をかけていきます。
 - 一 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「一人ひとりちゃんと理解して、よくなかったら注意をしてください。」とお願いします。
- 私たちは、仲間を大切に、いじめを撲滅する努力をします。

富士見市 いじめのない学校づくり宣言

教育委員会だより

◆令和3年4月以降に高校・大学等に修学されたお子様の保護者の方へ
＜富士見市＞利子補給制度のご案内

高校・大学等で修学するため、入学資金や在学資金など教育に要する資金を必要とされる方が、日本政策金融公庫の教育一般貸付を受けた場合に、教育の機会均等と経済的負担の軽減を図るため、市がその返済利子の一部を助成します。

1 交付対象

次の全てに該当する方

- ①高校、大学等へ修学する方の保護者であること
- ②富士見市に住民登録があり、現に居住していること
- ③市税を滞納していないこと
- ④日本政策金融公庫から、教育資金の融資を受けていること
- ⑤修学先の入学時に「富士見市高等学校等入学準備金利子補給制度」による利子補給を受けていないこと

2 利子補給期間

在籍する高校、大学等の正規の修学期間とします。

3 利子補給金額

借入れに係る利子の年額(上限1万7千円)を助成します
(※)利子の年額は、年度単位で計算します。

4 申請方法等

令和4年4月以降に申請受付を開始する予定です。

(※)申請方法・申請時期等の詳細は、令和4年4月以降に富士見市のHPや広報等にてご案内を予定しています。

◇利子補給に関する問合せ先

富士見市教育委員会 教育政策課(富士見市立中央図書館2階)
電話 049-251-2711(内線611)

◇教育一般貸付に関する申込み・問合せ先

日本政策金融公庫
教育ローンコールセンター:0570-008656
(ナビダイヤル)

＜富士見市近くの店舗＞

日本政策金融公庫 川越支店
住所 川越市脇田本町14番1 日本生命川越ビル5階
電話 049-246-4171(申込み相談)

本案内は、令和4年度予算成立後、速やかに事業を開始できるようにするため、予算成立前に案内を行うものです。
実際の事業実施は、令和4年度予算の成立が前提であり、今後、内容等が変更になることもありますので、あらかじめご了承ください。



子どもたちの工夫を生かして

水谷小学校 教諭 岡島 みどり



水谷小学校では、縦割りを取り組む「わんぱく祭り」という長い間続いてきた伝統行事があります。しかし、今年度はコロナの影響もあり、学校全体では取り組むことがで

きなくなりました。子どもたちにクラスでの開催を提案してみると「もしできるならお店ではこんなものを作ってみたい!」「お店の

増やしてみよう。」「待っていてもらうお客さんにはルール説明をしておこう。」「と、実際に取り組んでいく中で様々な工夫が出てきました。当日は子ども同士で盛り上げ

たり、優しく声をかけたりと楽しいお祭りにしようとする姿が見られました。振り返りでは、「参加賞の景品も喜んでもらえて、とても楽しいお祭りになったと思う。」「みんなが笑って楽しんで、もっと仲がいいクラスになった。」というコメントもあり、大成功でした。

子どもたちの工夫を生かせば、学校の伝統を継承していくことができるということ子どもたちが気づかせてくれました。

編集日記

今年も、あっという間に十二月がやってきました。感染症の状況も少し落ち着いた様子ですが、新しい変異株も見つかり、この先どうなるか分からない状態が続いています。とはいえず、学校には子どもたちの元気な声が響き、何とか無事、二学期の終業式を迎えられそうです。

暖かかった今年も、十二月に近づくにつれ、徐々に冬の気候に変わってきました。夕方、窓の外に目をやると、西の空がオレンジ色に染まっているのが見えます。時間がたつにつれて、オレンジ色はどんどん濃さを増して、校庭の周りの木々が黒いシルエットとして浮かび上がります。幻想的な世界が広がってきます。冷たい空気がビーンと張りつめた、何とも美しい冬の光景です。

十年ぶりに、日本全国で限りなく皆既に近い部分が見られました。「月食が見えるよ。」の一言で、まだ学校に残っていたみんなが、一斉に外に駆けだし、校庭や玄関先の広場で、しばらくの間、赤い月の神秘的な美しさに見とれていました。今、インターネットなどで、画面を通して、見たいものが何でも見られる時代になっていいます。インターネットで見聞を広め、様々なものに興味・関心をもち、様々なものに有意義で活動する体験を通して得られる感動ほど、強く心に残るものはありません。

(辻口)